

課題番号：6

テーマ名称：稲作の総合的な振興策（特に生産性向上、精米品質向上）

<p>1. 主な対象国・地域</p>	<p>サブサハラアフリカ地域 CARD<sup>(注1)</sup> 対象 32 か国<sup>(注2)</sup></p> <p>(注1) CARD：アフリカ稲作振興のための共同体  (注2) カメルーン、ガーナ、ギニア、ケニア、マダガスカル、マリ、モザンビーク、ナイジェリア、セネガル、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダ、ベナン、ブルキナファソ、中央アフリカ共和国、コートジボワール、コンゴ民主共和国、リベリア、ルワンダ、ガンビア、トーゴ、エチオピア、ザンビア、アンゴラ、ブルンジ、チャド、コンゴ共和国、ガボン、ギニアビサウ、マラウイ、ニジェール、スーダン</p>
<p>2. 分野</p>	<p>農業、食料・栄養</p>
<p>3. 関係する SDGs ターゲット</p>	<p>ゴール 2  飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。  ターゲット 2.3  2030 年までに、土地その他の生産資源、投入財、知識、金融サービス、市場、および付加価値や非農業雇用の機会への平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民族、小規模な家族経営の農家、牧畜家および漁師をはじめとする、小規模食糧生産者の農業生産性および所得を倍増させる。</p>
<p>4. 対象国・地域の当該分野の全般的な現状</p>	<p>アフリカでは都市部を中心にコメ需要が急激に増大しているながら、域内の生産の増加がそれに追いつかず輸入が増加し続けている。コメ増産のためには、栽培面積の拡大に加え、優良種子の導入や肥料の利用、適切な栽培技術の普及、農業機械化等により農業生産性を高めることが重要である。加えて、国産米の競争力強化に向けて、適切な収穫後処理による精米品質の向上も必要である。各国政府は CARD の枠組みのもと、稲作振興や農業機械化に向けた取り組みを進めている。</p>
<p>5. 解決すべき課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業投入材（認証種子、肥料）の利用。</li> <li>・ 農業機械化による農業生産性の向上や労働省力化。</li> <li>・ 適切な収穫後処理による精米品質の向上。</li> </ul>
<p>6. 上記をとりまく状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 均質な種子を利用していないこと、また適切な施肥を行っていないことにより、単収が低いレベルにとどまっている。</li> <li>・ 耕運機、トラクターや賃耕サービスが十分に普及していないことから適期に耕起作業が行えておらず、農業生産性の低下を招いている。</li> <li>・ コンバインの普及が十分でなく、手刈りを行えない大・中規模圃</li> </ul>

	<p>場では収穫適期を逃し品質低下につながっている。また、不適切な脱穀・乾燥作業で生じる割れ米や石の混入、低性能な精米機による精米の不均質化が生じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安価な中国製品が普及している国もあるが、耐久性や性能が低いことから、十分な効果が得られないとの指摘もある。</li> </ul>
<p>7. 活用が想定される技術・製品・ビジネスモデル</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕運機やトラクター導入による耕起サービス業者育成（賃耕、リース含む）やコンバイン導入による賃刈サービス業者育成。及びメンテナンス・アフターサービスや金融サービスを組み合わせた農機導入促進パッケージ。</li> <li>・収穫後処理施設導入による精米業者の育成、優良種子・肥料等の農業資材の供給や栽培指導をセットにした粳買取ビジネス。</li> </ul>
<p>8. 主要関連政府機関・ステークホルダー</p>	<p>農業省</p>
<p>9. 当該国・課題に対する日本政府・JICAの方針・戦略、関係するODA事業、他ドナー情報</p>	<p>JICAは2008年、TICAD4にてCARDを立ち上げ、コメ生産倍増に向けた取り組みを対象国政府・他の開発機関とともに推進してきた。2019年よりCARDフェーズ2が開始予定で、さらなる倍増を目指した取り組みを継続していく。CARDの取り組みの中で、農業機械化や民間セクターとの協調は主要な課題の一つであり、国産米の生産性・品質向上のためには、民間企業と連携し、農業機械、収穫後処理施設の普及が求められている。</p> <p><a href="https://www.jica.go.jp/information/seminar/2018/20181005_01.html">https://www.jica.go.jp/information/seminar/2018/20181005_01.html</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ各国に対する事業展開計画 <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/index.html#section1">https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/region/index.html#section1</a></li> <li>・JICA 開発途上国課題発信セミナー 農業 <a href="https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/news/ku57pq00002jdrb9-att/20190313_03.pdf">https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/news/ku57pq00002jdrb9-att/20190313_03.pdf</a></li> <li>・JICA 農業・農村開発に関するポジションペーパー <a href="https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/ku57pq00002cubgq-att/position_paper_agricul.pdf">https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/ku57pq00002cubgq-att/position_paper_agricul.pdf</a></li> <li>・JICA の課題別指針（農業開発・農村開発） <a href="https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/ku57pq00002cubgq-att/guideline_gricul.pdf">https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/ku57pq00002cubgq-att/guideline_gricul.pdf</a></li> <li>・SDG ポジションペーパー ゴール2 <a href="https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/ku57pq00002e2b2a-att/goal02_j.pdf">https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/ku57pq00002e2b2a-att/goal02_j.pdf</a></li> </ul>

10. 留意点・リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農機販売後の修理サービスやスペアパーツの供給等、維持管理面のサポート体制にも留意が必要。</li> <li>・導入モデルの仕様の検討にあたっては、耐久性が高くかつ現地修理工によっても修理可能な簡易な仕様が求められる。また、他国製品との比較において、メンテナンスや耐久性を含めたライフサイクルコストだけではなく、高い初期導入コストをカバーするための販売方法面での工夫も求められる。</li> <li>・製品の販売促進のため、農家や精米業者等が製品を調達する際に可能な金融アクセス（内容、貸付条件・貸付実績・返済状況等）も確認が必要。</li> </ul>
11. 参考情報	

※科学技術イノベーション（STI）を含む新しい技術の活用の積極的な提案を期待しています。

【STI（Science, Technology and Innovation）】

科学的な発見や発明等による新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造と、それらの知識を発展させて経済的、社会的・公共的価値の創造に結びつける革新。アフリカでは、モバイル技術等を活用した革新的なサービスも急速に普及してきており、課題解決及びSDGs達成のツールとしてSTIの活用が期待されています。革新的な技術により、これまで開発の成果が届かなかった人、場所に開発の成果を届けることができたり、革新的な効率化や質の向上を図り、時間的、費用的にコストを大幅に引き下げるなどの効果が見込まれます。